

安倍総理のすばらしい外交手腕と軽薄な湯川氏

安倍総理（第一次安倍政権のとき）が温家宝と会談した時のこと。中国側、日本の外務官僚、中国とズブズブの日本の国会議員らから安倍総理は「拉致問題だけは口にしないように」と圧力をかけられていたそう。そこで安倍総理は機転を効かせ、わざと温家宝に近寄って行き、耳元で「中国も拉致はありましたよねっ」と仰ったそう。それで温家宝がギクッと固まってしまったのだそう。

温家宝は、安倍総理には中国側の不当な要求は通らないと断念したはず。外交は戦略を練ってから臨まなくてはいけない。日本は中国になめられてきた。日本が誠実に対応すればするほどつけ込まれる。恩を仇で返される。そういう関係の時、中国が拉致問題を口にするなど言ってきたら、敢えて口に出したほうが良い。ならず者が望むことの反対の行動をとれば相手は不当な要求をやめる。そういう戦略ができるのは、安倍総理が本気で日本のことを考えていらっしゃるからだ。

かたや先般、「大雪災害で孤立する民家が多い中、総理、天ぷらなど召し上がってる場合ではないのでは？」と湯川れい子氏がツイート。湯川氏に対する反論が多く「湯川氏は何をしていた?! 助けに行ったのか?!」と問われ、「知り合いにの政治家たちに連絡していた」と答えたそう。

政治家は除雪作業員ではない。政治家へ連絡したところで何ら解決にはならない。湯川氏が助けたいと思うなら、助けるための『段取り』を取ることが必要。政治家への連絡は無駄な動きでしかない。

湯川氏から連絡を受けた政治家にしてみれば「丸投げ」されたことになるのだが、湯川氏は活動をしたつもりでいる。

そもそも天災に被害者はいても加害者はいないと思う。
外交問題山積の総理になんでもかんでも責任を押しつけるべきではない。

湯川氏は豪雪問題に限らず、苦勞をかけてきたこともなければ、最終責任を取ったこともないはずだ。成果を上げるには段取りと戦略が必要であり、感傷的な机上の空論ではダメなのだ。「可哀想、気の毒に」と言う暇があるなら段取りを取るべきだ。

これは湯川氏に限ったことではない。多くの『自称社会派』は役に立たない。欲深く、保身にエネルギーを注ぎ、動くために動いていて成果主義ではないからだ。

『自分が能力不足だから、社会がなかなか良くなるはずだ』と正しく総括できる日本人が増えれば日本は急激に良くなるはずだ。あなたが思うほどにあなたが有能だとするならば、今頃、あなたはその立場にはいないはず。

〒 960-8066 福島市矢剣町 11-3 星野節子 024-563-7650（電話、ファックス）

→うらへ

自己評価は高いが、、、

ビラを読んだ方が「私も前から同じ考えだった」と電話してくることがある。その人は、『考えるだけで行動はしないという考え』なので、私とは全く違う。あなたは、意見を不特定多数者へ広めるために、紙を買いましたか？ 印刷機を買いましたか？ 住所・氏名を公開して文章を書きましたか？ ポスティングしましたか？

私と同じなら、すでに私と同じことをしているはず。皆さんは、家族や友人の前で論評するだけに止まり、そこから踏み出せないでいるのでは？ 身内に向かって意見したところで成果は上がりません。

言うべき相手へ言うべきことを言う、卑怯な人間を卑怯だと批判する、クズヘクズと言う、そういう当たり前の心を取り戻し、『丸投げ』するのではなく、社会に必要なことは自分がする、社会に必要なものは自分が作る、という気持ちを持ちましょう。

できた人の意見は聞く価値がありますが、できてない人の意見は聞く価値がありません。

その苦勞、本当に苦勞？

一週間で解決できれば一週間しか悩まなくて済みます。一日で解決できれば一日しか悩まなくて済みます。一生解決できないと一生悩み続けます。その悩み、あなたに解決能力がないだけではありませんか。煩惱が強いただけなのに、それを正当化しようとしていませんか。

10人で10年かかって解決するよりも、一人で一日で解決するほうが遙かに立派なのです。なのに10日で10人もかかったほうが、なんとなく達成感を感じるのはセンチメンタルだから。簡単なことを難しく感じるよりも、難しいことを簡単に感じるように努力をすれば、迷惑がられずに済みます。1歩1歩前進より100歩100歩前進を。

褒められると本気にする人は伸びない

褒められた時、なぜ褒めてくれたのかを洞察しましょう。激励なのか、騙すためなのか、伸ばすためなのか、人間関係を円滑にしたいためなのか。褒められると嬉しくて、その話に食いつく人で伸びた人はいません。一流の人ほど、自分はまだまだと思っています。